

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 24人 |
| ② 算数 | 24人 |
| ③ 理科 | 24人 |

5 留意事項

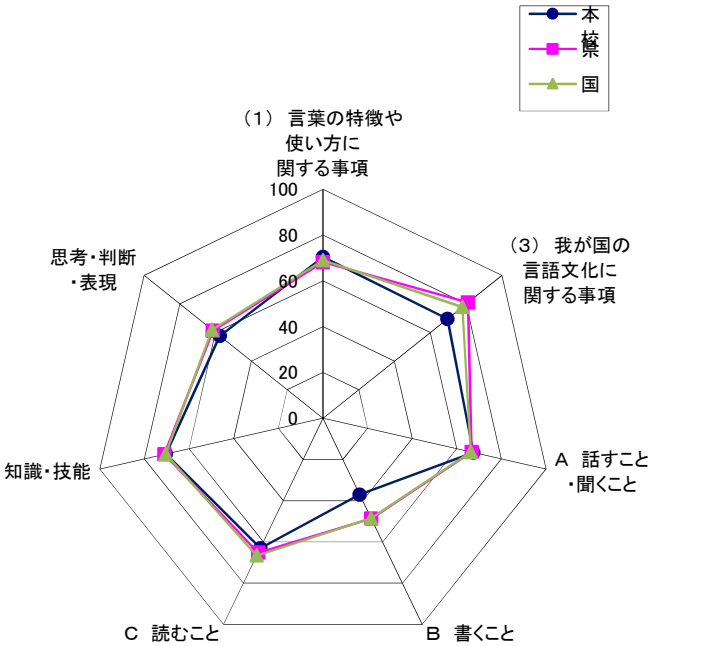
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.4	68.2	69.0
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.6	81.0	77.9
	A 話すこと・聞くこと	67.4	66.6	66.2
	B 書くこと	37.0	48.7	48.5
	C 読むこと	63.0	65.2	66.6
観点	知識・技能	70.3	71.0	70.5
	思考・判断・表現	57.6	61.4	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	○話ことばと書き言葉との違いを理解しているかを問う問題については、正答率は91%であり知識が定着している。 ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを理解しているかを問う問題では、正答率が県平均を上回っている。 ●漢字問題の正答率は県平均を上回っているものの、65%の正答率でありさらに定着を図る必要がある。	・漢字の習得については、一人一台端末を活用したり、朝の学習や家庭学習で復習したりする機会を設けるなどし、繰り返し学習することで既習内容の定着を図る。 ・物語を音読する活動を多く設けるなど、言葉のつながりを意識して文章を読む力の定着を図る。 ・言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉え、指定された漢字を文の中で正しく使う力の定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●読みやすい文字の配列を問う問題の正答率は70%であり、県平均を11ポイント下回る。	・書写の時間等を有効に活用し、文字の中心をそろえて文を書くようにする習慣を身に付ける。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかを問う問題では、正答率が90%を超えている。 ●自分の立場や意図を明確にしなが、条件に合わせて自分の考えを記述する問題の正答率は、43%であり、県平均を5ポイント下回っている。	・自分の意見をもったり、発表したりする活動を取り入れ、考えが正しく相手に伝わったかどうかを振り返る。また、学級内でそれぞれの考えを共有することで、表現力の向上を図る。 ・各学級に掲示している「みんなで伝え合い学び合おう」(話し合い活動の掲示物)を活用し、話し方や発表の仕方を確認しながら、表現力の向上を図る。 ・条件に沿って、短い文章を書く活動を取り入れたり発表したりしながら、表現力の向上を図る。
B 書くこと	●文章全体の構成や展開を考える問題では、正答率は43.%であり県平均を14ポイント下回っている。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて記述する問題の正答率は30%であり、県平均正を9ポイント下回っている。	・国語科や道徳科の授業の中で、自分の意見をもち、それを文章で表したり、条件に合わせて文章を書いたりする活動を意図的に取り入れるようにすることで、表現力の向上を図る。 ・他者から聞き取ったことを簡潔にまとめたり、短い文章を要約したりする活動を取り入れるながら、要点を捉えて文章を書く能力の向上を図る。

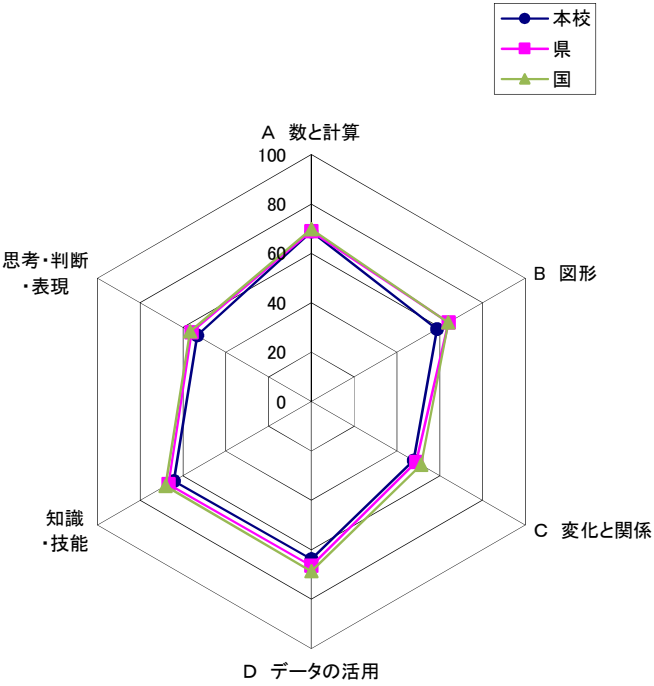
C 読むこと	○人物像や物語の全体像を具体的にとらえて、記述する問題の正答率は82%であり、県平均を14ポイント上回っている。 ●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える問題の正答率は65%であり、県平均を2ポイント下回っている。 ●登場人物の相互関係を描写を基に考える問題の正答率は56%、表現の効果を考える問題の正答率は47%であり、県平均をそれぞれ10ポイント下回っている。	・授業において物語に取り組んだ際、登場する人物像について確認をしたり、登場人物の様子や気持ちなどを丁寧に読み取ったりすることで、登場人物の相互関係を的確に捉えられるようにする。 ・様子を表す語彙について、様々な表現方法があることを理解させることで、語彙を増やし、理解を深めるよう工夫する。
---------------	---	--

宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	68.8	69.0	69.8
	B 図形	58.7	64.1	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	47.8	49.0	51.3
	D データの活用	63.8	66.5	68.7
観点	知識・技能	64.3	66.8	68.2
	思考・判断・表現	53.4	56.1	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

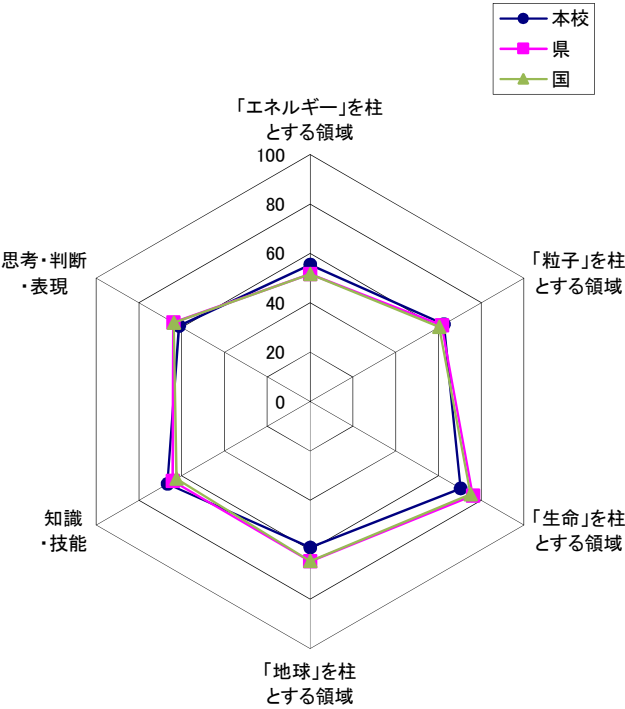
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○かけられる数に0のある計算の正答率は90%と高く、計算の仕方がよく理解できている。 ○2つの数の最小公倍数を求める問題では、正答率が82%であり、県平均を9ポイント上回った。 ●適切ながい算を使うことができるかを問う問題では、県平均を12ポイント下回った。	・計算の仕方がしっかりと習熟するように、引き続き朝の学習など様々な時間を使って反復練習をしていく。 ・目的に合った数の処理については、実生活に関わる場面を問題とすることで、概数の適切な処理ができるよう指導していく。 ・式の意味を理解することができるように、文章を読んで立式する際は、図や言葉、数直線などに表し、数が何を表しているのかということを明確にしながら、問題に取り組みさせていく。
B 図形	○三角形の意味や性質を基に角の大きさに注目して、正しいプログラムで正三角形を描くことができるかを問う問題では、正答率は県平均を大きく上回った。 ●図形を構成する要素に着目して、平行四辺形であることを判断する問題では、県平均を18ポイント下回った。	・図形の性質を理解させた上で、その性質を利用しながら発展的な問題に取り組みさせていく。 ・アプリを活用しながら、プログラミングを用いてねらいとする図形を描く活動を取り入れることで、プログラミング的思考の向上を図る。
C 変化と関係	○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、正答率は県平均を上回った。 ●百分率で表された割合を分数に表す問題の正答率は、県平均を21ポイント下回った。	・百分率や割合の問題では、身の回りの問題に置き換えて考えたりするなどことで、割合の意味を捉えやすくして指導をする。 ・百分率と分数の関係性を数直線に表すなどして確認する時間を設けることで理解を深める。
D データの活用	○表の意味を理解しているかを問う問題では、正答率は78%であり、県平均を6ポイント上回っている。 ●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかを問う問題では、県平均を12ポイント下回った。	・グラフの特徴や活用場面など、どのような情報を読み取ることに効果的なのか等について、確認をしながら理解を深めていく。 ・算数に関わらず他教科においてもグラフを活用する時間を設けるなどして、データの活用力の向上を図る。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.4	51.6	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.6	61.6	60.4
	「生命」を柱とする領域	70.4	76.1	75.0
	「地球」を柱とする領域	59.1	64.7	64.6
観点	知識・技能	66.7	64.2	62.5
	思考・判断・表現	61.3	63.9	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○問題解決のために、実験の過程や結果を適切に記録できるかを問う問題では、正答率が78%であり県平均を3ポイント上回っている。 ○日光が直進することを理解しているかを問う問題では、正答率は県平均を上回った。 ●自分で発想した実験方法と、追加された情報から実験の方法を見直すことができるかを記述する問題では、正答率は65%であり、県平均を3ポイント下回った。 ●実験のまとめとなった根拠を実験結果から記述する問題では、正答率は30%で県平均を3ポイント下回った。	・日光の当たり方は、時間とともに変化することを確認する場を設ける。 ・自分なりに文や絵などにまとめる活動を取り入れ、自分の考えを記述する力を育成する。 ・実験結果を問題に照らし合わせながら、考察することができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○水溶液の氷点に関し、結果をもとに設問に対するまとめを選択する問題では、正答率は73%であり、県平均を12ポイント上回った。 ○実験に使用する機器の名称や使い方を問う問題では、正答率は約78%であり、県平均を10ポイント上回った。 ●空気中に水蒸気が含まれていることを理解しているかを問う問題では、正答率は43%であり、県平均を18ポイント下回った。	・空気中に含まれる水蒸気の存在を再度学習の中で確認するとともに、理科の実験だけに限らず生活の中での経験を想起させながら理解を深める。 ・メスシリンダーや温度計などの操作方法について、メスシリンダーや温度計を使用する際にその都度使い方を確認しながら、さらに定着を図る。
「生命」を柱とする領域	○昆虫の観察の仕方に関し、問題を解決するために必要な観察の視点を考えることができるかを問う問題では、正答率は91%と高い値を示している。 ○昆虫の体のつくりを説明するために適した写真を選択する問題では、正答率は82%であり、県平均を7ポイント上回った。 ●昆虫の成長過程に関し、多様な情報を処理して、問題に対するまとめを記述する問題では、正答率は60%であり、県平均を8ポイント下回った。	・身の回りの生き物について、採集したり育てたりする中で、生き物の様子や周辺環境、成長の過程や体のつくりに着目して、それらを比較しながら調べる活動を行う。 ・生き物を育てた経験と生き物の成長における資料をもとに予想する力をつける事が必要であることから、授業の中で多様な視点で観察する力つけさせたり、予想する力をつけさせたりする機会を設けるようにする。

「地球」を 柱とする領域	○冬の夜の気温の変化について、予想が正しい場合の結果を選択する問題では、正答率は74%であり、県平均を7ポイント上回った。 ●冬の夜の気温の変化について、「結果からいえること」を観察結果と結びつけ、考えのもととなった記録を選択する問題では、県平均を4ポイント下回った。	・天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を行う。 ・天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを確認するとともに、観察実験データなどを基に理解できるようにする。 ・「問題、予想、観察実験、結果からいえること、まとめ」までの一連の活動において常に関連をもたせ、目的は何かを確認しながら、活動を進めるようにする。
-------------------------	--	---

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問については県の平均を大きく上回り、肯定的な回答をしている児童が多い。また「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」についても県のへ肯定的回答を大きく上回っている。人とかかわりの大切さ、人間関係について正しい認識をもって日々過ごしている。また、全員が「人の役に立つ人間になりたいと思っているか」について肯定的回答をしていて、人とかかわりを将来まで続けていこうという気持ちがよく表れている。今後も学校生活の中においてさらに自信をもって良いところを伸ばしていけるよう、指導、支援を続けていきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」については県の肯定的回答を大きく上回っている。学校生活が充実していることと、友達関係においても良好な関係であることがうかがえる。今後も児童の様子や些細な変化をしっかりと見取り、さらに充実した学校生活を送ることができるよう支援していきたい。

○学習においては「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなど学習活動に取り組んでいますか」において県の肯定的回答を大きく上回っていて、制作活動や自分の思いをもとに調べ学習を行うなど意欲的に学習に取り組むことができているので、引き続き支援をしていきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問について県の肯定的回答を下回った。その要因として自己肯定感が低いと考えられるため、今後学校生活や学習の中で認める機会やほめて伸ばす機会を取り入れて自己肯定感を育てていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」については県の肯定的回答を下回っていて、自分の学習状況を考えながら伸ばすところをきめるなど自分で学習を調整する力を育てていきたい。

●「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか」について県の肯定的回答を下回っている。学習のつながりを意識させた学習の導入の工夫や、既習学習をもとにした考えを使って学習を取り組ませるなどの経験を授業の中で育てていきたい。

●「算数の授業の内容はよくわかりますか」、「算数の授業で学習したことを、ふだんの生活の中で活用できないか考えますか」、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について県の肯定的回答を下回っている。このことから既習学習をもとにした学習の導入を意図的に仕組んだり、普段の生活経験の中から算数の課題を見つけ、解決するような機会を効果的に取り入れた学習を進めること、そして応用問題においては一人一台端末を効果的に活用し、友達の考えを視覚化し共有しながらそれぞれが解決するなど主体的に学習に取り組む力を育てていきたい。

宇都宮市立城山東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・前学年までの「宮子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 ・家庭学習での、漢字・計算くりかえし練習。 ・AIドリルの活用。	○●国語の漢字の読み・書きでは正答率が国の平均を、上回っているものがあるが、逆に下回っているものもあった。さらに繰り返し練習を行う必要がある。 ○算数の「割合」に関する問題では、国の平均を上回ったものが多く、繰り返しの学習の成果が出ている。 ○理科では、全体的に平均または平均を上回ったものが多かった。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動の日常化(※「考えるときのヒント」の掲示物の活用) ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫 ・自分の考えを書いてから話し合う等、学習過程の工夫 ・ペアや少人数、グループ等の学び合い形態の工夫(※コロナ対策をする。) ・話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用 ・本を介しての学び合い学習の実践 ・条件に沿った文章表現や振り返りの実施	○国語の「話すこと・聞くこと」の領域の、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」問題では、9割を超える正答率で、国・県とも大きく上回った。 ○質問紙における「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」では、肯定的な回答が国の平均より多い。

読書活動の推進	・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 ・家読の推奨(※長期休業中実施) ・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 ・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施 ・朝の学習(月・火は読書)	○質問紙の「読書は好きですか」の肯定的回答は約9割だった。図書室に何度も行き、本を借りたり読んだりしている児童が多い。
実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実	・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実 ・日常生活における身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定	●算数の、「百分率で表された割合を分数で表す」問題は、正答率が約5割であった。計算の仕方の理解にも課題があるが、百分率を分数で表す数の大きさの感覚をもつことも課題といえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語における言語についての知識・技能の正答率は、9割から6割と、国の平均を大きく上回ったものもあれば、平均を下回ったものもあり、むらがあった。知識を継続させ漢字を正しく使うことに課題がある。 算数では、ひし形の意味や性質、構成の仕方について国や県の平均に達していないことから、図形に苦手意識のある児童が多いことが分かった。	復習により、基礎基本の定着を図る学習の充実(国語の漢字・算数の計算に重点を置く。)	既習漢字の確実な定着を図るために、「宮っ子学習ステップアップシート」等を活用し、朝の学習や家庭学習の課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返す行う。 また、ノートを書く時や作文指導などの際に、既習漢字を使うことや文と文のつながりを意識することを重点的に指導する。 算数の図形では、復習プリントや計算ドリルを活用し、知識の定着を図っていく。